



千葉労働動員

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話(鉄電) 千葉 2935・2936番
(公) 043(222) 7207番

96.6.13 No. 4413

6月5日 夏季輸送 要員操配などで団交

六月五日、千葉支社において夏季輸送に関する要員問題について団交交渉が開催された。

夏季輸送(七月二〇日〜八月一八日)における波動業務は、千葉転、京葉、鴨川に持たせるという計画となっているが、千葉支社が明らかにした一日平均の必要波動要員は、千葉運転区・一人、京葉運転区・五人、鴨川運転区・土日のみ一人ということで、千葉転に夏季輸送の波動業務が集中している。

またも年休がまともにとれない要員体制を強制するののか!

この間、年間を通じて波動業務が集中する千葉転において、年休さえまともにとれないという事態が強制されている。当局は、別表のとおり、見習い運転士が一本となった後の過員状況について団交のなかで明

団交で明らかにした各区の余裕人員状況

習志野運転区	+12
京葉運転区	+11
千葉運転区	+5
鴨川運転区	+1
銚子運転区	+3

いずれも、見習い運転士が仕上がった段階で、但し、京葉運転区への数は、明らかならな

らかにしたが、波動が集中する千葉転は、五人しか余裕がなく、夏季輸送業務に無関係な習志野運転区に一人の過員を置くという歪んだ体制となっている。

夏季輸送の士職助勤操配など眼中にない支社

この日の団交では、「夏季輸送に伴い車掌が足りない」、「一〇人強、車掌経験のある士職から車掌に使いたい」、「地域間移動を千葉にもらえるのではないかと見通しがあったが、本社から『全体的に余裕はない』と断られた。」

従って「士職の助勤操配については、考えていない」理由だとする回答に終止する。しかし支社は、夏季輸送計画の概要説明を勤務千葉に行った際、組合から「士職を車掌へと充たさせる計画はどうなったのか?」と問うと、「地域間移動

団交で明らかにした千葉運転区・夏季輸送期間中の波動必要要員

7月20日	16人	8月	29日	1人	8月	12日	5人	8月	12日	1人	土曜日
21日	17人		30日	1人		13日	6人		13日	1人	曜日
22日	18人		31日	1人		14日	7人		14日	1人	曜日
23日	18人		8月	1人		15日	8人		15日	1人	曜日
24日	19人		3	1人		16日	9人		16日	1人	曜日
25日	19人		4	1人		17日	10人		17日	1人	曜日
26日	19人		5	1人		18日	11人		18日	1人	曜日
27日	18人		6	1人		19日	11人		19日	1人	曜日
28日	18人		7	1人		20日	11人		20日	1人	曜日
	?		8	1人		21日	11人		21日	1人	曜日

がなんとかなりそうなので、士職を車掌へと充たさせなくとも済みそうだ。」とし、「では、夏季輸送に伴う助勤操配はあるのか?」と問うと、「計画はない。」としてきた。

千葉支社は、そもそも「士職の助勤操配」など予定していなかったのだ。

**波動要員が必要
な千葉転に適正
要員を配置せよ**

団交では、千葉転の組合員も参加し、この間の要員不足のため、年休がまともにとれない状況を支社に明らかにし、支社の要員操配の考え方について追及してきた。

別表でも明らかなおお、要員に余裕があるのは、習志野運転区と京葉運転区である。仮に、車掌経験者の多い習志野運転区・京葉運転区から一〇人余りを車掌として下職重当させたとしても、約二〇人の余裕人員を助勤操配すればいいのである。すでに夏季輸送まであと一カ月余りとなっている。

支社管内の大部分に乗り入れている千葉転は、長期の線路見習いが必要だ。この日の団交で千葉支社は、団交終了際に「助勤操配を検討したい」旨ようやく回答した。千葉支社は、早期に助勤操配について明らかにせよ!